

あ と が き

(社)日本透析医会創立10周年記念シンポジウムが盛会裏に終わった。今後の慢性透析医療は医学的にどうあるべきか、患者さんにとっての生活・医療環境はどのようなにあるべきか、腎不全対策がなぜ必要か、などが全て語られているように思う。

村山直樹先生の報告を読むと、腎疾患に止まらず多くの生活習慣病が放置されている。啓発運動を含む予防体制の充実、それを可能にする財源の裏付けを希求せざるを得ない。

目黒輝雄先生の報告や今年の日本透析医学会の報告でも、慢性透析患者の年間累積数はようやく減少傾向に転じたようでもあるが、もう2、3年データを追わないと断言はできないだろう。

日本透析医会雑誌が既に14巻を数えるのは、当医会が任意団体としてそれを発行していた時期が4年近くあったからであり、ちなみに初代広報委員長が当医会副会長・専務理事であった故太田祐祥先生、二代が長谷川辰寿先生、三代が私ということになる。やっと日本透析医会雑誌投稿規定を掲載することができた。これからますます当医会雑誌の水準は向上して行くものと思われる。これは一重に当医会副会長飯田喜俊先生の真摯なご指導に依るものである。

(広報委員長 奥田健二)